

タキイ交配 「F₁サンリッチ[®]」系



↑ミニ作りひまわりを使用したアレンジ。テーマは「光が似合うさわやかな色のリース」。

ひまわりの ミニ作り栽培



トレイ栽培は、女性でもラクラク持ち運びが可能。

1 ミニ作りに適した 品種特性

- ①「F₁サンリッチ」シリーズは花弁数が多く、大きくても小さくても、花型が安定しています。
- ②茎はかたくて花もちがよく、全体的に小葉でスタイルよく仕上がります。
- ③揃いがよいので栽培しやすく、一定の環境が整えば高い秀品率を見込めます。
- ④無花粉なので、ミニ作りでも芯黒の品種は弁と芯のコントラストがはっきりしていて、ひまわりらしさがあります。「F₁サンリッチ フレッシュオレンジ」なら、より明るい印象の花に仕上がります。



↑ミニ作りは、花だけでなく茎が細く仕上がり、アレンジの用途が広がる。品種は「F₁サマーサンリッチ バイン45」。

タキイ種苗(株) 営業部園芸課
伊東 俊二

近年、店頭で赤や黄色の花をたくさん咲かせたけいとうの苗物を見かけるようになりました。これまで1ポット1本植えが常識だった鉢物に、多粒まき栽培によって複数の株を植え、しかもミニにすることでまったく新しい価値を見出した商品です。けいとうは以前から、切り花でも密植栽培により花を小さく全体をスリムに仕上げることがなされてきました。しかし、どの花でも密植により商品価値のある切り花に仕立てられるわけはありません。

今回紹介するひまわり「F₁サンリッチ」シリーズも密植栽培により小さく作ることができる品目の一つで、小面積で数多くの切り花を得ることができます。

2 栽培のポイント

初期生育を揃える

通常「F₁サンリッチ」系の栽培は、初期に地中深くに根を入れ、まず本葉4枚までをしっかりと育てます。その後、生育を見て徐々に乾かしぎみの管理をしながら止め葉をあまり大きくしないよう、しめて作り込みます。特に、夏の草丈が最も伸びる時期などには、密植することで光の量や根からの養水分の吸収を抑え、草丈を低く、全体に小さく細く仕上げるすることができます。

「F₁サンリッチ」系のミニ作りでは、圃場での直播栽培と比較して、さらに光や根の量が制限されるため、正常な生育をさせるために、水や肥料でうまくコントロールすることが必要になります。

ポイントとしては、初期生育を揃えることと、生育の後半は必要な分だけの水と肥料を切らさない程度に最小限にとどめることが挙げられます。必要以上に水や肥料を切ってしまうと、葉に生理障害が出たり、奇形花を起

こす原因になるので注意してください。また、葉が小さく光合成作用も天気に影響されやすいうえ、根量も少ないので、よりこまめな栽培管理をする必要があります。

① 容器栽培でのポイント

プラグなど浅い容器での栽培では、数日で一次根が底に達し短くなるため、花の大きさが小さくなります。そのため、発芽を揃え、灌水むらが起こらないように気をつけ、初期の生育を揃えるよう心掛けてください。

栽培容器は仕上げたい切り花の大きさにもよりますが、比較的栽培しやすく、花も小さめに仕上げたいのであれば、育苗箱（深さ5cm）や9cmポットなどがよいでしょう。より小さく仕上げたければ、50穴トレイなど土量が少ないものにします。ただし、土が少なくなるほど乾きやすくなり、灌水管理に注意が必要になります。乾きやすい時期の栽培では極端に萎れさせると葉が傷みますから、あまり小さな容器での栽培は難しくなります。

この場合、根が地面に入らないよう、容器の下には透水性のある防根シートなどを敷いておきます。

② 播種方法

タネまきは事前に用土に十分な水を含ませ、水による初期の生育のばらつきが生じないようにします。用土は初期に肥料切れが起こらないよう、「たねまき培土」などのようなある程度肥料の入ったものの方がよいでしょう。株間によって生育揃いが変わるので、タネはなるべく等間隔にまきよう心掛けます。

発芽の適温は25℃です。温度が低くなると発芽が揃いにくくなります。特に15℃を下回ると極端に発芽揃いが悪くなるので、春先の播種など温度の低い時期には加温するかトンネルをかけ、できるだけ温度を確保してください。

反対に30℃を超えるような日中が暑い時期の播種では、夕方の気温が下降に向かう時間帯に播種するなど、極力吸水、発芽の環境を揃えます。

ヒマワリの栽培では、本葉4枚までの初期生育のよし悪しがその後の品質を決めてしまうといっても過言ではありません。灌水むらなどで初期生育が不揃いにならないよう、特に注意してください。



←株間によって生育揃いが変わるため、等間隔にタネをまく。



←根が地面に張り出さないようにトレイ下に防根シートを敷くように。



↑ミニ作りに最適な土量。



↑播種後約1カ月目の様子（左からコンテナ、9cmポット、育苗箱、水稻育苗箱、50穴トレイ）。

生育後半の管理

草丈が伸びるにつれて倒れないようにフラワーネットを張るか、周りをひもで誘引します。換気が悪かったり、夜間に水分が多すぎると徒長しやすくなります。特に、蕾が見え始め開花に向けて節間伸張が盛んになると、下葉が黄変し軟弱になりやすくなります。

基本的には乾かしぎみに育てますが、生育後半で必要以上に水や肥料を抑えると、生理障害や奇形花を生じるので、葉色を観察し、緑色が淡くなり始めたら液体肥料などで追肥を行います。通常栽培に比べ密植で根も少ないので、追肥は薄い肥料を回数多く与えることがポイントです。



↑ 手灌水をすることで、生育を均一に揃える。



↑ 生育途中。草丈が伸びるにつれて倒れないようにネットを張る。



↑ 標準のひまわりより小さめの蕾の段階で出荷するとよい。

生理障害対策

土の量が少なくなるにつれて花は小さく茎も細くなります。播種から開花するまでの日数は極端に大きな差は生じませんが、開花節数は根量が少なくなると大きく減ってしまいます。また、曇天後に急に晴れたりするなど気候条件が安定しない場合には、鉄欠乏などの生理障害が起こりやすくなります。ただし、生理障害については発生直後に微量要素入りの液体肥料を灌注すると、その後かなり改善することができます。

播種後3～4週間目の花芽が分化するころに、急激な温度変化や日照不足が原因で奇形花の率が高くなる傾向があります（今年の春は雨や曇天日が多く、日照不足による障害が多く発生し、開花遅延も起こりました。また、同じ容器で栽培しても播種期によって生育に大きな差が生じました）。

4月まきに比べ5月まきでは、水稻育苗箱や50穴トレイなど乾きやすいものでは、おのずと灌水回数が増えるため生育に差が出やすくなります。また、土を10cmほど

入れたコンテナでは、5月まきで栽培した場合、花はやや小さいものの、草丈が非常に高くなりバランスの悪いものになりました。同じ5月まきでも、根が十分張った直播区ではしっかりと水を抑えることができるので、草丈を抑えられます。ミニ作り栽培においては灌水をいかにうまく行えるかが大きなポイントになります。うまく均一に作るには、面倒なようでも手灌水によって丁寧な灌水をする方がよい結果になります。



← 気候が安定しないと鉄欠乏などの生理障害が発生しやすくなる。

表 「F₁サンリッチ」系のミニ作り栽培データ

（2006年 滋賀県タキイ研究農場）

品種名	栽培容器など		播種数 (1容器分)	開花日		草丈 (cm)		花径 (cm)		茎径 (mm)		開花節位	
				4/10 播種	5/10 播種	4/10 播種	5/10 播種	4/10 播種	5/10 播種	4/10 播種	5/10 播種	4/10 播種	5/10 播種
F ₁ サマー サンリッチ バイン45	50穴トレイ (58×24×5cm)		50	6/4	7/2	50- 60	70- 90	7- 9	6- 7	5- 7	6- 8	11-13	16-17
	水稻育苗箱 (58×28×4cm)	(用土3cm入り)	50	6/5	7/2	50- 60	60-100	6- 9	7-10	5- 7	6- 9	12-13	15-17
	育苗箱 (44×32×8cm)	(用土5cm入り)	50	6/5	7/1	70- 90	80-130	7-11	8-11	5- 8	6- 9	12-14	18-20
	9cmポット 24鉢用SSトレイ入	SSトレイ48×32cm	24	6/5	7/2	70- 90	90-120	8-11	8-10	7- 9	7-10	12-15	20-22
	コンテナ (57×37×23cm)	(用土10cm入り)	70	6/5	7/4	70-100	100-160	8-12	8-11	7- 9	8-11	13-16	19-20
	圃場直播き (12cm、8条)	12×12cmに1本	—	6/7	7/4	90-130	80-110	9-13	9-12	9-11	8-11	20-23	26-28
新発売 F ₁ サンリッチ オレンジ50	50穴トレイ (58×24×5cm)		50	6/15	7/7	60- 70	70- 90	7- 8	6- 8	5- 6	6- 7	14-15	17-18
	水稻育苗箱 (58×28×4cm)	(用土3cm入り)	50	6/14	7/8	70- 80	70-100	7- 9	6- 7	6- 8	5- 9	14-15	16-18
	育苗箱 (44×32×8cm)	(用土5cm入り)	50	6/12	7/7	80-110	90-150	8-11	8-11	6- 8	5- 9	14-15	19-21
	9cmポット 24鉢用SSトレイ入	SSトレイ48×32cm	24	6/12	7/8	80-100	100-130	8-11	8-10	7- 8	7-10	15-17	21-23
	コンテナ (57×37×23cm)	(用土10cm入り)	70	6/13	7/8	90-130	130-170	7- 9	9-13	6- 9	9-12	17-19	25-27
	直播き (12cm、8条)	12×12cmに1本	—	6/13	7/9	100-140	100-130	9-13	10-14	8-11	7-10	23-25	29-30
F ₁ サンリッチ オレンジ	50穴トレイ (58×24×5cm)		50	6/22	7/12	60- 80	80-100	7- 9	8- 9	5- 7	5- 7	16-17	21-23
	水稻育苗箱 (58×28×4cm)	(用土3cm入り)	50	6/22	7/15	70- 90	80-110	8-11	8- 9	5- 9	6- 9	16-19	19-21
	育苗箱 (44×32×8cm)	(用土5cm入り)	50	6/18	7/11	90-120	100-160	8-11	8-13	5- 9	5-10	18-19	21-23
	9cmポット 24鉢用SSトレイ入	SSトレイ48×32cm	24	6/18	7/12	90-120	110-150	8-12	9-12	7- 8	8-10	18-20	23-25
	コンテナ (57×37×23cm)	(用土10cm入り)	70	6/17	7/14	100-140	120-190	8-12	10-13	7-10	8-12	18-21	24-26
	直播き (12cm、8条)	12×12cmに1本	—	6/17	7/16	120-140	110-135	10-16	10-15	9-12	8-11	28-30	30-31

開花日：全体の約2～3割が咲いた日を開花日とした

用土：タキイセル培土TM-1を使用

仲卸さんの立場から聞きました(京都生花市場内)

「ミニ作りひまわりの需要の見込み！」

花と緑の総合仲卸
有限会社みやこ

代表取締役 すぎもと たつのり
杉本 達則さん

基本的に細茎のミニひまわりはアレンジ用の花材になります。ただしミニでも茎にある程度のかたさが必要ですね。100本単位の出荷だと量販扱いとなり値段が出にくいので、50本程度の少ロット出荷の方がよいでしょう。「F₁サンリッチ」系ならオレンジ・レモン・緑芯（フレッシュオレンジ）を各20本ずつの3色入りの出荷がおもしろいと思います。相変わらず人気が高いひまわりの用途や需要がさらに広がると思います。

花の総合流通サービス
有限会社フローワイズ

代表取締役 やまもと よしあき
山本 義明さん

ミニひまわりの花径は5～6cmがベストです。私は、「F₁サンリッチ」系ひまわりをスプレータイプに仕立てる人を知っているので、そういうのもおもしろいかと思います。ミニ作りひまわりをアレンジ用にほしいという人もいますので、この提案は大変興味深いです。出荷は少ロットがよく、例えば同時期に3色出すことが可能であれば10本×3色を1箱として、単発でなく、市場に周年出回ると価格も安定し、定番アイテムとしての需要が見込めると思います。単価としては60円くらいを見込めるのではないのでしょうか。50本入り出荷が一番よいと考えます。

小売店さんの立場から聞きました



「ひまわりアレンジの可能性」

株式会社茨木春草園

FD部 執行役員総店長 こやま あきひと
小山 聡人さん

「ひまわりを使ってアレンジする」となると、小売店では結構固定観念があり、まずイメージするのが真夏のアレンジ、また南国風でヘリコニアや大きめの葉物と合わせたりする大ぶりのダイナミックなものになりがちです。あくまでひまわりは「主役」にしかかなりえない花材だと思っていました。

ところが、ミニ作りの「F₁サンリッチ」では花径もミニでほかの花材とのバランスがとりやすく、何といてもステム（茎）が細いので挿しやすく、繊細な小ぶりの商品にも使えるのがうれしいです。まさに「脇役」にもなりえる花材といえます。また、このことにより花材イメージもナチュラル、エレガント、シック、ロマンチックなど、合わせる花材によって味つけの可能性がとても広がったと思いますし、ほぼ通年使えるとしたら、例えばブライダルテーブルアレンジやブーケにも提案できます。

今回は、ナチュラルテイストのアレンジを試みましたが、機会があればひまわりのまっすぐな茎の形を生かしたデザインや、はつらつとしたイエロー＆オレンジの花色にフルーツや小物をあしらったデザインなどもぜひ試みたいです。小売店にとって、どんどんイメージを膨らませてくれる花材にめぐりあえた気がします。市場で1本40円くらいなら使いますね。出荷は1ケース50本くらいがアレンジ花材として仕入れしやすいと思います。



↑ ナチュラル風情のブーケ。



↑ 風に揺れるハンギング。



タキイ富士見試験地「草花品種展示会」でも好評！

(編集部)

7月にタキイ富士見試験地にて開催した「草花品種展示会」において、会場内にひまわりの展示コーナーを設け、ミニ作りのひまわりを使ったアレンジメントを展示しました。

市場流通で通常見られる小型サイズの切り花ひまわりよりさらに小輪で茎の細い「F₁サンリッチ」系のひまわりということで、「かわいい！」「作りたい！」など生産者の方も一目で興味を示され、栽培方法をはじめ出荷時における出荷ケースのサイズや出荷本数など、具体的な質問も数多くあり注目を集めました。